

日本側拠点機関名	神戸大学
日本側コーディネーター所属・氏名	神戸大学国際文化学研究所・坂井一成
研究交流課題名	日欧圏におけるコミュニティの再生を目指す移住・多文化・福祉政策の研究拠点形成
相手国及び拠点機関名	ヒルデスハイム大学(ドイツ)、ルーヴェン大学(ベルギー)、ナポリ東洋大学(イタリア)、パリ西ナンテール大学(フランス)、ベトナム国家大学ホーチミン市校(ベトナム)、マヒドン大学(タイ)、国立政治大学(台湾)、釜山大学校(韓国)

研究交流計画の目標・概要

【研究交流目標】交流期間(最長5年間)を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。

中東情勢の緊迫に伴い、年初以来 EU に流入した移民・難民は 53 万人を超えたとされている。混乱に乗じた不法移民の増加だけでなく、移民の急増が EU 社会に与える様々な影響が今や議論的になっている。

現代社会は、日本や EU に典型的に見られるように、互いに密接に連動する 3 つの急速な変動に直面している。すなわち、現代社会では《移住の活発化》によって受入社会の社会的・政治的・経済的不安定が惹起されたり、《多文化化》の進行によって地域コミュニティが分断される一方、多文化化が福祉の再分配に必要な国民の連帯感を浸食し《福祉国家の揺らぎ》を招きつつある、という危惧も生じている。これら 3 つの社会的変動は、少子高齢化という長期的な人口動態と相まって、先進社会の安定性と維持をおびやかしつつあるだけでなく、移住者やその家族の人権と福祉に関する深刻な懸念を日本や EU に突きつけている。

日本は、先進社会特有のこれらの課題を EU と共有するとともに、アジア・太平洋圏とは移住労働の受入れを含む密接な政治的・経済的関係を結んでいる。他方、アジア諸国それ自体も、大規模な移住労働によって社会的変容を遂げつつある。今や、日本、EU、アジアの研究者は、進行するグローバル化のもと、伝統的コミュニティを超えて、安定した新たな生活圏を構築するのに必要な政策を発信するため、多彩な切り口から、斬新かつ建設的な知見を討究かつ共有する責務がある。本プロジェクトは、人文科学と社会科学の交錯領域に位置するこの未開拓の課題に、理論と実証の両面から取り組む国際的研究体制を構築するため、明治以来まさに多文化が交差してきた神戸の地に、EU とアジアをつなぐ研究拠点を形成するものである。

【研究交流計画の概要】 共同研究、セミナー、研究者交流を軸とし、研究交流計画の概要を記入してください。

急増する移住や多文化化などが惹起している社会的・政治的・経済的な大変動は、もはや国内レベルの調査・研究の範疇には十分に収まらず、送出し社会と受入社会の双方を包摂する国際的な研究ネットワークによる真摯かつ迅速な共同調査・共同討議を必要としている。本プロジェクトでは、主に移住労働者を供給する側のアジアの研究者と受入社会の側にいる日欧の研究者とが、共同研究によって現代的な問題状況を共有したうえで、次の 3 つの研究交流を遂行する。

共同研究 毎年、いずれかの拠点機関に研究者が集結するたびに、それぞれの社会で移住者、その家族、支援者、政策策定者、公的・私的事業体、住民など様々なアクターを対象に、実証的調査を質的・量的両面において共同で実施する。日本国内では、例えば神戸市や富山県や栃木県など外国人労働者の定住・定着化に際して様々な課題が生まれている地域において、国内の協力機関の助力を得ながら共同で現地調査を遂行し、日本国内の視点と移住労働の送出し社会の視点とを照らし合わせることによって、より安定的かつ持続的な多文化的コミュニティの構築を模索する。

セミナー 拠点機関で毎年定期的開催されるシンポジウムやワークショップで、社会学、政治学、人類学、ジェンダー論、国際関係論、文化政策学等の知見を動員しつつ、「移住・福祉国家・人権」、「多文化化状況における地方都市の再興」などの共通テーマをめぐる研究発表と共同討論を重ねることを通じて、再生産労働の変容や新たな都市文化政策の構想などに関する認識の齟齬を埋め、より発展的な多文化的コミュニティを構築するための政策研究を行う。また、毎年国際シンポジウムに併せて、ポスドクや博士後期課程学生の切磋琢磨の場としての《次世代セミナー》を若手研究者自身のイニシアティブにより開催する。

研究者交流 従来は特に予算の問題により研究者の相互交流は制約されていたが、特に神戸大学とアジア・EU の諸研究機関との間の研究者相互派遣をいっそう拡大することによって、研究者がお互いに派遣先での共同研究・調査に参加し意見交換を行うだけでなく、研究者養成に教員又は助言者として貢献することを通して、研究・教育両面における連携を強め、大学機能のいっそうの充実と向上をめざす。

日欧亜におけるコミュニティの再生を目指す 移住・多文化・福祉政策の研究拠点形成

京都大学文学研究科
アジア親密圏／公共圏
教育研究センター

国立民族学
博物館

東京外国語大学
国際関係研究所

宇都宮大学
国際学部

神戸大学

富山大学
東アジア言語
文化講座

その他の国内外の
研究機関

日欧亜の拠点大学を結集する
先端研究拠点の形成

- ◆ 国際共同研究・調査
- ◆ 国際シンポジウム・ワークショップの開催
- ◆ 拠点機関の間での研究者相互派遣
- ◆ 《次世代セミナー》による若手研究者の育成

その他の国内外の
協力研究者

アジア

- ベトナム
ベトナム国家大学 ホーチミン市校
- タイ
マヒドン大学
- 台湾
国立政治大学
- 韓国
釜山大学校

ヨーロッパ

- ドイツ
ヒルデスハイム大学
- ベルギー
ルーヴェン大学
- イタリア
ナポリ東洋大学
- フランス
パリ西ナンテール大学